5　テーマ「高齢化等地域の課題に対応する新しい自治組織の創造」

（1）早良区四箇田校区自治協議会
～自治協議会の委員会組織を見直そう～

四箇田校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人　　口　　7，999人　（男3，829人，女4，170人）
○世 帯 数　　3，474世帯
○自治会・町内会数　　7団体
○校区の特徴

四箇田校区は，昭和54年四箇田団地の建設に伴う小学校の設立により4団体で発足し，その後平成１４年度から四箇の3団体が編入し7団体になった比較的新しい校区である。

① 校区住民は，三つのタイプに分かれている。
ア 古くから住み主に農業を営まれている。イ．新しく住居を構えられた新住民
ウ 一時的に居住されている住民
従って，町づくりに関わる積極性と考え方に大きな違いがみられる。

② 高齢者（65歳以上）が現在22%，平成30年には30%近くになる。

③ 自治協議会の組織率が現在49．8%と低い。これは，団地が19%他は80%台である。
自治協議会結成当初は，54%（団地約28%）であった。16年の世帯数が3，361世帯が現在3，474世帯であり増加しているにもかかわらず組織率が下がっている。

④ 校区の半分は調整区域であり，農業に利用され自然豊かな地域である。

① テーマの選定とその背景

ア　委員会を見直す理由

（ア）現行委員会の問題点

各町内自治会が持つ困難点

㋐ 高齢化のため委員としての活動が十分にできる人材が不足。
㋑ 委員会の活動内容により適材適所人選が出来にくい。
㋒ 特に四箇本町は農業関係の役割があり現在１人がいくつかの役を持たざるを得ない状態である。
㋓ 団地自治会は会員が減少し委員に割り当てられない。
㋔ 委員適任者に男性が少ない。若い男性は勤めのため委員になりたがらない。
㋕ 高齢化が進み５年後には確実に33%になり，3人に一人は高齢者となる。
㋖ 会員数が減少し委員対象者も減少している。

※参考　24年以降の高齢化率の推移
24年度20．1%，25年度23．7%，26年度25．7%，27年度27．6%，
28年度29．9%，29年度31．8%，30年度33．6%

（イ）委員会及び委員が持つ問題点

㋐ 委員会間で委員の活動量に差がある。
㋑ 委員会で人員不足のため，各町に支援をお願いする場合，困難な町がある。
㋒ 委員に女性が多くその為活動が制限される。
㋓ 男女共同参画委員会の日常的活動をどうしたらよいかの問題
㋔ 委員の意欲の問題
㋕ 委員が目的・活動内容に対する認識が浅い。活動している事が住みよい地域づくりにつながっている認識が低い。

（ウ）問題点をまとめると

㋐ 委員対象者の高齢化，将来的に高齢化はもっと厳しくなる。
㋑ 会員減少等による委員対象者の減少　㋒ 委員の女性化傾向

（エ）委員会見直しの視点は

㋐ 高齢者でも出来る委員会活動　　㋑ 少数委員で出来る委員会活動
㋒ 女性にも出来る委員会活動
上記の 3 項目を満たす委員会は
・少数による活動　　・委員は事業の企画，運営にあたる
・地域づくりは住民の力で
・適材適所，女性や高齢者を生かす

イ　取り組みの経緯

○ 4 月 13 日　役員会，運営委員会にて総会提案内容決定
○ 4 月 28 日　総会にて「運営や事業のあり方・委員会の活動や構成員等を見直す」ことを承認
○ 5 月 11 日　役員会　見直しの方法，日程等について審議
○ 5 月 20 日　役員及び各委員会委員長と協議
委員活動に携わっての問題点集約
・委員が減少しても活動できる。
・各町のバックアップ体制が必要
・委員の役割を明確にする
・活動のあり方を見直す
・地域に関わる活動は，知己みんなで取り組むことが原則
○ 8 月 10 日　役員会にて「委員会設立の経緯について」の学習が必要と意見
○ 8 月 15 日　福岡市地域活動アドバイザーを交え今後の進め方について協議
・地域づくりと委員会活動との関係を理解しておく
・若い人を取り込む
・見直しが必要であるとの声を皆から起こさせる
・皆の意見を大切にする
・多くの人の参加によるワークショップが有効である
○ 8 月 31 日　学習会中止（台風）のため，各自資料（別添資料 1）をもとに学習
○ 11 月 2 日　委員会委員を対象に「委員会活動と地域づくり」について学習会とワークショップ実施
テーマ「活動に携わっての問題点と改善したいところ」
○ 随時，役員・各委員会委員長で見直しの方向性を審議しまとめる。

② ワークショップの実施

11月2日役員及び委員会委員を対象にワークショップを実施した。
参加者53名(約40%関心が薄い)
7グループに分かれ「委員会活動をして困ったこと」「委員会はどうあるべきか」を話し合った。

ア　参加者の意見

(ア) 活動をしていて問題点等気がついたこと

・主たる仕事がよくわからない(男女共)女性の地位向上というが何をすればよいのか。昨年は婦人会のように『ゴミ集め』『手伝い』が多かったが他校区は講演をしている。しかし予算の問題がある。
・問題なし。委員が内容をよく理解している。(体振)
・委員を減らすなら各町の応援が必要(体振)
・無理にでも参加すると町内のことがわかる。(重留)
・青少年委員にしても体育委員にしても行政からくる行事が多い。こちらでセレクトしないと負担が大きい。
・青少年問題だが校区の子供が少ない。　・記録がなく，引継ぎが不十分
・委員を決める時点で活動内容をあらかじめ知らせる。
・委員の構成は性別，青・壮・老のバランスがとれた組織であってほしい。

(イ) 委員会はどうあるべき

・運動会で各町必ず1名を出されるなら，委員は各町1名でよい。(体振)
・委員の中から委員長を出すことになると体育振興会では絶対務まらない。
・委員は各町2名となっているが1名でもよい。(男女共)
・委員には，委員に出席できる人を選んで欲しい。
・委員を町内2名出すことに限界がある。
・仕事が減っているので2名でなくても良い。(防犯)
・仕事を持っている人が多いので1名では不安(防犯，重留)
・人数を減らすなら体制を整えなくては(体振)
・委員会どうしのコミュニケーションが必要。(重留)

(ウ) その他の意見

・10年以上委員をしている人がいるが。(体振)
・役員が10年も15年もしている代わりがいないため止むを得ず。(団地)
・現行委員の問題点を出して話し合わないと
・委員会を代表する意見でなくてよいのか。
・自治協に若い人が入らない。入り易い環境づくりが必要。皆でカバーし合う事。
・行事が多すぎる。運動会と夏祭りを1年ごとにしてはどうか。

イ　ワークショップのまとめ

（ア）委員会活動について関心が薄い。その為か問題点や困難点があまり出なかった。
（イ）活動をしている意識より，させられている意識か。
（ウ）自分たちの活動が地域を支えている意識が薄い。
（エ）高齢化との関係は，委員を選任する立場の町内会長が切実に感じている事で，現委員は，感じていない。
（オ）将来的に高齢化の問題と地域づくりを危惧しているのは，会長等役員であるので，もっと地域の人々に理解してもらうことが必要である。

③　まとめ

ア　見直しの視点

（ア）構成員数
　㋐ 委員数を減らす。
　㋑ 現行の委員数を定数に近づける努力。定数外委員の取り扱いを明確にする。
（イ）委員会の再編
（ウ）委員，委員会の役割を明確にする。
（エ）委員会と地域づくりの関係を明確にする。
（オ）委員と委員会のあり方等の研修の持ち方を工夫
（カ）委員会運営の手引きをつくる（現行の手引きより抜粋）
（キ）引継ぎの方法を工夫する。

イ　具体的取組

（ア）構成員数
　㋐ 活力補助金の見直しが検討されているので，確定するまで現行容認。
　㋑ 早急に見直す（兼任の容認　外）
（イ）活力補助金の見直しが検討されているので，確定するまで見直し保留。
（ウ）委員の役割を明確にする。
（エ）各委員会の目的を再度明確にする。
（オ）委員会研修の持ち方・開催時期を考える。
（カ）運営の手引きの委員会部分を冊子にして配布
（キ）引継ぎの方法を工夫し２６年度から実施する。

ウ　明確にするべき事項

○委員会の役割
・委員会は，目的実現のため事業の企画運営にあたる。
・事業内容によって，委員会のみで実現できないものは，各町内自治会へ支援をお願いする。
・事業内容に専門性が要求される場合は他の委員会へ支援を求める。

○委員の役割
・所属委員会の目的に従って活動する。
・委員は各町内自治会の要望等を委員会に伝え活動に生かす。
・委員会の意見等を委員所属各町内会自治会に伝える。

別添資料－1

・学習会のための資料（25.10）

（1）自治協議会発足時の委員会について

ア 設置の根拠

活力あるまちづくり支援事業補助金の交付要件である下記の必須事業を実施することとなった。

① スポーツ・レクリエーションに関する事業
② 交通安全の推進に関する事業
③ 地域で子どもを育む意識を醸成し，健全育成活動や非行防止に関する事業
④ 男女共同参画推進に関する事業
⑤ ゴミ減量・リサイクル推進に関する事業
⑥ 環境・美化に関する事業
⑦ 集団献血に関する事業
⑧ 健康づくり活動に関する事業
⑨ 防災に関する事業

イ アの事業を実施するため既存組織(連合会)をベースに決定した組織と目的

① スポーツ・レクリエーションに関すること。(番号は設置の根拠の番号を指す)
体育振興会（２４年規約改正で委員会と改める）：各町３名・四箇住宅２名
目的：地域のスポーツとふれあいを深めるレクの振興

② 交通安全の推進に関する事業
交通安全推進委員会：各町１名
目的：地域の交通安全に関すること，安全安心な地域づくり

③ 地域で子どもを育む意識を醸成し，健全育成活動や非行防止に関する事業
青少年育成会(２１年委員会と改める)：各町１名地域委員
目的：青少年の健全育成に関すること。

④ 男女共同参画推進に関する事業
女性協議会（１７年男女共同参画委に改める）：各町２名
目的：男女共同参画に関すること・女性の人権と役割を考える。

⑦ ⑧ 集団献血に関する事業・健康づくり活動に関する事業
衛生委員会：各町２名
目的：地域の健康に関すること・健康の保持と増進を目指す。

⑨ 防災に関する事業
防犯防災委員会：各町２名
目的：防犯・防災に関すること。安全安心な地域づくり

⑤ ⑥ 環境・美化に関する事業
環境推進委員会（１９年市より校区に移管され委員会となる）：各町２名
目的：地域の環境浄化に関すること

（2）委員会の目的等の見直しについて

平成21年　自治協議会「運営の手引き」を作成し，運営委員全員に配布。当初作成した委員会の目的を修正し，具体的活動を付加した。

① 体育振興委員会

目標：地域のスポーツ・レクリエーションの振興を図り，住民の福祉の増進，住民同士のふれあいを深める機会を作り，健康づくりに寄与する。

活動：体育的事業の立案と運営・校区健康づくり事業への支援
校区スポーツ大会の運営　外-

② 青少年育成会

目標：青少年の健全な育成を図り，非行防止に寄与する。

活動：生活を切り開こうとする子どもの育成を目的とした事業の展開
非行防止をねらいとするパトロールの実施　外

③ 交通安全推進委員会

目標：地域の交通に関する安全の確保及び交通安全指導に寄与する。

活動：地域における交通安全確保のため地域の諸団体との連絡調整
交通安全運動期間(年4回)の街頭指導の実施　外

④ 衛生委員会

目標：校区住民の健康づくりに努力すると共に集団献血に協力する。

活動：住民の健康に関する啓発活動
集団献血の啓発と保健所補助活動　外

⑤ 防犯防災委員会

目標：校区住民が安心して暮らせる安全な地域づくりに寄与する。

活動：防災防犯に関する意識の向上を目指す啓発活動
防犯灯の管理と新設の申請　外

⑥ 男女共同参画委員会

目標：女性の地位向上を目指す。そのため，女性だからとの決め付けを廃し，男女が人として尊重しあえる環境の醸成に努める。

活動：女性の人権に関する意識の向上を目指す啓発研修活動
女性の地位向上を目指す具体的取り組み

⑦ 環境推進委員会

目標:地域の環境破壊に目を配りと共に環境美化や地球温暖化問題解決に役立つ取り組みに努力する。

活動：住民の環境問題に関する意識向上を目指す啓発活動
地域の生活環境悪化を防ぐため事前に問題を把握し改善に努める外

⑧ 各委員会共通

・定例会の実施
・活動目標の設定と概要報告及び問題提起　外

⑨ 問題点及び反省点

「運営の手引き」を平成21年度の運営委員には配布したが，その後配布しなかったため，各委員会の委員までは浸透しなかった。

（3）平成22年に補助金の必須事業(9項目)がまちづくり基本事業へ分類整理

ア　まちづくり基本事業

① 安全・安心に関する事業（交通安全・防災及び防犯）
② 子どもに関する事業（子どもの健全育成・非行防止）
③ 環境に関する事業（環境美化及びごみ減量・リサイクル推進）
④ 健康に関する事業（健康づくり及び集団献血）
⑤ スポーツに関する事業（スポーツ・レクリエーション）
⑥ 男女共同参画に関する事業(男女共同参画)

イ　地域の活性化や問題解決に繋がる事業

・夏祭り，校区運動会，ドンド焼き　外

分類整理されたが，既存の委員会でまちづくり基本事業を実施できるので，変更なし

（4）現在の事業と委員会

交通安全の推進に関する事業
（交通安全推進委員会）
スポーツ・レクリエーションに関する事業
（体育振興委員会）
地域で子どもを育む意識を醸成し，健全育成活動や非行防止に関する事業
（青少年育成委員会）
男女共同参画推進に関する事業
（男女共同参画委員会）
ゴミ減量・リサイクル推進に関する事業
（環境推進委員会）（リサイクルステーション運営委員会）
環境・美化に関する事業
（環境推進委員会）
集団献血に関する事業
（衛生委員会）
健康づくり活動に関する事業
（衛生委員会）
防災に関する事業
（防犯防災委員会）
その他の事業（夏祭り，校区運動会，環境浄化運動，ドンド焼き　外）

6　テーマ「自治会・町内会の活性化」

（1）東区千早西校区自治協議会
～よりよい町内会運営に向けての課題の共有～

千早西校区のデータ（平成25年9月30日現在）

○人　　口　　6,835人　（男3,224人，女3,611人）

○世 帯 数　　3,048世帯

○町内会数　　15団体

○校区の特徴

千早西校区は，国道3号と都市高速道路に挟まれた校区で，戸建住宅と集合住宅のほか，商業施設も立地しています。平成25年度からは，千早西小学校が道徳教育推進モデル校に指定され，自治協議会，小学校，公民館が連携して「こころ輝くまちづくり」を進めています。

① テーマの選定及びその背景

千早西校区では，よりよい町内会の運営を目指すため，町内会長をはじめとする役員の悩みや課題を話し合い，その課題の解決に向けて意識を共有するためにワークショップを開催した。一定の結論を導き出すというよりも悩みや意識を共有することに主眼を置いた。

② ワークショップの開催状況

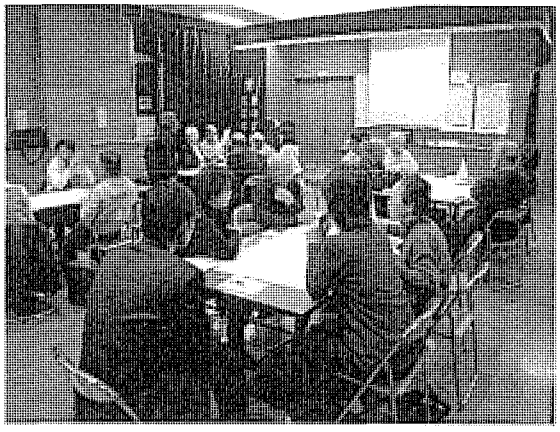
外部講師として福岡市地域活動アドバイザー貞清　潔氏を招き，自治協議会役員，部会長，町内会長等が参加して，千早西公民館でワークショップを２回開催した。

	日　　時	主な内容	参加数
第１回	12/4（水）19:00～20:30	市民意識調査結果について	22人
第２回	1/8　（水）19:00～20:30	地域活動・組織運営の課題や工夫，今後に向けて	23人

ア　第１回ワークショップ

（ア）プログラム

1　開会・あいさつ
2　＜ワークショップ＞
　①プログラムの紹介
　②市民にとって町内会は？
　　～市民意識調査結果を用いて～
　③市民意識と町内会について意見交換
　④発表
3　閉会



（イ）ワークショップ

■市民にとって町内会は？

平成24年度市政に関する市民意識調査の結果での「地域活動は大切だと思いますか？」と「地域活動に参加していますか？」の設問について，肯定的な回答の割合を予想してみた。

「地域活動は大切だと思いますか？」について，各班の予想では「そうだと思う」「どちらかと言えばそうだと思う」を合わせて 55％～70％だったが，実際の結果は91.1%だった。

「地域活動に参加していますか？」について，各班の予想では「よく参加している」「ときどき参加している」を合わせて 18％～30％だったが、実際の結果は34.2%だった。

いずれもワークショップ参加者の予想より肯定的な回答の割合は高かった。

■市政に関する市民意識調査の結果について

講師から，パワーポイントを使って，地域活動に関する調査結果について　平成22年度，24年度の意識の変化などの説明があった。

■市民意識と町内会活動について意見交換

＜主な意見＞

○地域活動の大切さは90％とみなわかっているが，参加していない人が65％いる。みな人任せである。

○参加したきっかけは，友人・知人，地域の役員に誘われた人の割合が高い。やはり呼びかけは必要だと思う。

○参加しなかった理由で，地域活動に関心がないからがかなり増加していることがとても気になった（H22：8.0％→H24：14.3％）。

○大切と思う活動は，防犯，子育て，高齢者だとみなわかっている。これを実現するにはどうすればよいかをやはり校区や町内で話し合うことが必要。

○大切だと思う活動と参加した活動が比例していないことがとても問題だと思う。住民が望んでいる活動を創り出す必要がある。

○町内会へ加入してない理由として，加入を勧められたことがない 65.3％（H24），活動や運営状況がわからないから 35.5％（H24）は，理解できない。

○福岡市に自治協議会ができて 10 年にもなるのに認知度が低すぎる（まったく知らない 50.3％（H24））。

イ　第１回ワークショップ

（ア）プログラム

1　開会・あいさつ
2　＜ワークショップ＞
　①プログラムの紹介
　②前回の振り返り
　③地域活動の活性化に向けて
　　・地域活動や組織運営の課題と工夫
　　・これからの地域活動や組織運営で大切にしたいこと
　④発表
3　閉会

（イ）ワークショップ

町内会や自治協議会等の活動，組織運営の課題を知り合い，これからの活動の活性化に向けた工夫について話し合った。

■地域活動や組織運営の課題

＜主な意見＞

○行事の参加者を集めることが大変。

○行事の準備作業などへの住民の協力が得にくい。

○町内会長，役員のなり手がない。

○町内会長や役員の理解不足，引継ぎ不足がある。

○住民の情報がなく，ワンルームマンションへのなどへの対応が難しい。

■地域活動や組織運営の工夫

＜主な意見＞

○参加された方にはできるだけ声かけし，コミュニケーションを図るようにしている。

○若い世代を誘うため，また子ども達の顔を覚えてもらうためイベントを行う。

○行事への参加は，現役員だけでなく旧役員にも依頼して各行事への参加を呼び掛けてもらっている。

○告知方法に気を使っている。回覧物には，重要事項にはマーカーを引いたり，手書きするなどしている。

○町内会の定例会議では，わかりやすい資料で説明を行う。口頭だけでの説明ではだめ。

○月に一度の組長会で情報伝達し，仕事の分担を行っている。

○綿密な役割分担をし，担当を確実にする。

○日ごろから，挨拶，声かけを重視している。

○隣に座った人にはいろいろ自治会活動について話しかける。

■今後の地域活動や組織運営で大切にしていきたいこと

＜主な意見＞

○町内の人達が仲良くなることが大切，そのためには町内会（定例会）を月 1 回～2 カ月に 1 回開催していろいろなことを話す。

○予算や行事などは，町内の人が納得できることをやっていく。

○町内会の活動はボランティアであり，仕事ではないため，やれることをやれる範囲で一生懸命やればよい。

○自分が住む所だからみんなと仲良くしていく。

○コミュニケーション！いつでもどこでも誰とでも。

○周りの方への心配り，人の輪を広げる。

② まとめ

今回のワークショップでは，同じような居住形態による４班編成を行ったうえで，ワールドカフェ形式でも意見交換を行った。共通する悩みや相違する悩みなどを確認することで地域活動や組織運営についての改善のヒントも得ることができた。ここで出された悩み，考え方を次期役員にも伝え，継続して役員をする際の心がけや工夫のヒントなど，地域活動や組織運営が少しでも改善できるように，成果をみんなで共有していくこととした。

◆作　成
福岡市市民局コミュニティ推進部コミュニティ推進課
〒810-8620　福岡市中央区天神１丁目８―１
電話 092-711-4286　　FAX 092-733-5595
メール community.CAB@city.fukuoka.lg.jp
ホームページ　http://www.city.fukuoka.lg.jp/community/
◆「地域支援課」の連絡先
東　区　電話 092-645-1041　　FAX 092-645-1042
博多区　電話 092-419-1048　　FAX 092-434-0053
中央区　電話 092-718-1062～3　　FAX 092-714-2141
南　区　電話 092-559-5071～5　　FAX 092-562-3824
城南区　電話 092-833-4062～4　　FAX 092-822-2142
早良区　電話 092-833-4416　　FAX 092-851-2680
西　区　電話 092-895-7036　　FAX 092-882-2137

第3回

福岡市自治協議会サミット

□開催日時：平成26年8月26日（火）13:30～（13:00開場）

□開催場所：ももちパレス（福岡県立ももち文化センター）

大ホール

□主　　催：福岡市　福岡市自治協議会等7区会長会

自治協議会サミットプログラム

時間	プログラム
13:00	開場
13:30	開会
13:40	自治貢献者感謝状贈呈式
14:00	事例発表 ○「人材育成～新任町内会長向けの研修の実施と引き継ぎ資料の作成～」 中央区草ヶ江校区自治協議会　会長　　宮原　泉 中央区草ヶ江校区自治協議会　副会長　竹下　浩子 ○「住んでよかったそんな街に」 早良区野芥校区自治協議会　会長　行徳　收司 ○「安全・安心のまちづくり」 東区青葉校区自治連合協議会　事業部会長　　救仁郷　登喜男 東区青葉校区自治連合協議会　事務局長　　木村　妙子 ○「防犯で住みよいまち　吉塚」 博多区吉塚校区自治協議会　会長・防犯委員会会長　笹山　守人 博多区吉塚校区自治協議会　副会長　　棚田　正憲 博多区吉塚校区自治協議会　副会長　　萩原　純子 ○「地域のシンボルづくり ～世代を超えた地域住民が参加できる新しい祭りの創設～」 南区西高宮校区自治連合会　副会長　甲斐　育子 ○「出あい　ふれあい　助けあい　明るいわが町　わが校区」 城南区城南校区自治協議会　会長　　稲益　重樹 城南区城南校区自治協議会　副会長　川島　恭子 ○「北崎の魅力とまちづくり活動～北崎を考える会～」 西区北崎校区自治協議会　会長　柴田　敏昭
15:15	休憩
15:25	意見交換 ○コーディネーター：福岡市地域活動アドバイザー　十時　裕 ○コメンテーター：各区事例発表団体 福岡市自治協議会等７区会長会代表　　石川　孝治 〃　　平山　清子 福岡市　東区長　日下部　修
16:30	閉会

活動事例発表

「人材育成～新任町内会長向けの研修の実施と引き継ぎ資料の作成～」

中央区草ヶ江校区自治協議会　会長　　宮原　泉
中央区草ヶ江校区自治協議会　副会長　竹下　浩子

校区の特徴

・九大六本松キャンパス跡地や福岡大学附属大濠高等学校などがある文教地区と護国神社，旧陸軍墓地がある谷公園などの緑に包まれた住宅地区という性格を合わせ持っている。
・昭和 2 年に大濠公園で開かれた博覧会を機に，城南線が開通して急速に発展を続け，現在も，交通の要衝として副都心的な性格を持っている。
・地下鉄 3 号線の開通，さらには九州大学六本松地区跡地の開発と合わせて，さらなる発展が期待されている。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
15,039 人	7,970 戸	1.9 人/世帯	2,566 人（17.1%）

活動について

１．概要

初めて町内会長となる方に町内会，自治協議会の活動を理解していただくために，その活動内容をまとめた研修資料を作成し，その資料を活用して研修を実施している。

２．きっかけ

町内会長が 2 年に 1 回交代されるところがあり，1 年目は何もわからず，2 年目で少しわかってくる。新任の町内会長にも，早く活動について理解していただく必要があると感じたこと，また，重要な引き継ぎ事項の漏れや誤解が生じることもあったので，具体的でまとまった説明資料が必要と感じた。

３．経緯

これまで自治協議会役員や事務局で作成してきた資料を，役員で話し合い，新任の町内会長を想定した説明資料にまとめ，研修資料とした。現在はこの資料を活用して，新任町内会長を対象に自治協議会役員が講師となり，研修を実施している。

４．成果

・町内会長が交代しても，スムーズな移行ができるようになった。
・町内会長の役割や，自治協議会の活動内容を説明することで，新任会長の不安軽減にもつながっている。
・町内会加入率が 94%と高く維持できている。

５．苦労した点

・新任の町内会長向けの研修会では，町内会活動の大切さや楽しさを伝えることに苦労している。
・2 年間で交代してしまう町内会長は，有能な人材であっても役職に就けることができない。
・町内会長を辞めることで活動から遠ざかってしまうことが多い。

６．工夫した点

・マンション建設の際の管理会社との交渉の仕方や町内会費に関する覚書の書式を具体的に示すことで，町内会長の負担を軽減している。
・町内会に貸付けしているヘルメットやジャンパーなどの備品台帳を作成した。

７．今後の目標・課題

・後継者（若い世代の人）を育てるためにも，役職を次の人が引き受けやすい環境づくりが大切なため，今後も工夫していきたい。
・町内会長の仕事に，魅力ややりがいがもてるようにしていきたい。
・町内会長を辞めても，活動に残ってもらえるような仕組みを考えたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

・町内会長の仕事は，住民の皆さんの理解と協力が不可欠。
・人材を発掘して育成するためには，リーダー的な人の声掛け，気配り，支援が大切。

「住んでよかったそんな街に」

早良区野芥校区自治協議会　会長　行徳　收司

校区の特徴

・西油山の麓にあり，緑豊かな自然環境の中，263 号線を挟んで東西に広がっている校区である。
・商業施設や店舗等も多く，地下鉄 3 号線，外環状線，都市高速の開通などにより，近年，戸建て，アパート，マンションの建設が進み人口が増えているが 65 歳以上の人口率も高くなっている。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
11,541 人	5,117 戸	2.3 人/世帯	3,129 人（27.1%）

活動について

１．概要

校区自治協議会の 14 町内，14 団体のほか，小中学校とそのＰＴＡ，保育園・幼稚園，保護司会，野芥南商工連合，どこのけ会（地元有志の団体）などが一堂に会し，自治協・公民館が「年間テーマ」を提案する。また，各団体からの要望を聞いたり，基調講演を実施したりしている。

２．きっかけ

町内会連合会の時代に，各町内会や各団体間の連絡が十分でないまま行事が決まり日程が重なることが往々にしてあったと聞いていた。年度当初に各団体が集まり日程を調整することで，各団体の行事をスムーズに進め，相互理解を深めるようにしたいということから始まった。

３．経緯

昭和 57 年度第 1 回野芥サミットはテーマを「住んでよかったそんな街に」と設定してスタートした。

平成 26 年度で 33 回を数え，この間のテーマは青少年健全育成，地域づくりと人権，地域の活性化を目指して，ごみ問題と地域の人間関係，子どもや高齢者が住みよい街に，安心・安全の街づくりなど様々なテーマを追求してきた。

平成 16 年度は自治協議会のスタートに当たり「自治協議会とまちづくり」というテーマで話し合った。

平成 26 年度のテーマは「野芥校区あいさつでつなぐ人の和・地域の和」であった。この間，町内会連合会傘下の町内会の集まりから校区で活動する団体に呼び掛けて 30 団体以上の三役 100 名近くの人が参加するようになった。

４．成果

年度当初に開催されるため，各団体等の取組みが早い時期にわかり協力体制を取る場合に早めに対応できる。

また，各団体の三役紹介を行うことにより，顔と名前の確認を取ることができる。

さらに，自治協や公民館以外の団体に案内することにより，より広範囲の団体が共通目標を持ち活動を展開できる。

サミット開催時，自治協議会が情報を集めて作成した野芥校区年間行事日程表を配布することで各行事が校区全体に認識される。

５．苦労した点

100 名近くの参加者を収容できる施設が少なく参加者も椅子のみの状態である。現在は，民間の施設を借用しており準備に労力を要しているため公設の施設の必要性を強く感じる。

また，規約や要綱が無くテーマについても各団体の自主性に依存している。そのためテーマの継続性や深みのある活動が気になるところである。

６．工夫した点

年間テーマについては青少年に関するもの，高齢者に関するもの，安全安心について，環境美化問題など「住んでよかった野芥の街」と言われるように数年おきに繰り返している。

役員交代期においては必ず三役紹介をし，全員に徹底するようにしている。節目の時期には１時間程度の基調講演を行って学習的要素を入れている。

平成 23 年度の「東日本大震災救助活動の現場から」は救助活動に赴いた福岡市職員から，平成 25 年度は「地域と精神障がい者の共生を目指して」と題して地元病院から講演をしていただいた。

また，サミット終了後は必ず「懇親会」を開催し交流を図っている。

７．今後の目標・課題

サミットのテーマがマンネリ化しないような工夫，参加者（三役）の枠の拡大，校区内のあらゆる団体の把握（網羅できているか)。

皆さんにぜひ伝えたいこと

自治協議会の活動を幅広く厚みのあるものにしたいと思います。

野芥公民館では週 3 回，2 時間ですがコーヒーコーナーを開設し身近な公民館として気軽に立ち寄れるように取り組んでいます。自治協議会もコーヒーコーナーを訪れる人のために新聞 3 紙を揃え好評を得ています。このような公民館との協力が校区の皆さんの関心を呼び校区の発展に繋がればと期待しています。

「安全・安心のまちづくり」

東区青葉校区自治連合協議会　事業部会長　　救仁郷　登喜男
東区青葉校区自治連合協議会　事務局長　　木村　妙子

校区の特徴

・青葉校区は，山陽新幹線とＪＲ香椎線に挟まれ，北側には三日月山を臨む緑豊かで閑静な住宅地域である。
・青葉小学校，青葉中学校，東福岡特別支援学校，東部療育センターが公民館近くにまとまって建っており，お互いの連携も密である。また地域の住民の学校に対する理解も深く，協力も積極的である。
・総合病院である原土井病院などの各種医療施設に加え，高齢者介護施設であるデイサービスセンターや通所介護施設等も校区に点在し，福祉面で恵まれた地域という住民の意識も強い。地域での生活向上，福祉の向上のため意識の高い人が多く，校区内の各種団体はそれぞれ大変活発に活動し，自治連合協議会を中心として連携も密である。一方，積極的活動者の高齢化は進んでいる。若い世代への活動継承は大きな課題である。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
12,301 人	4,730 戸	2.6 人/世帯	2,772 人（22.5%）

活動について

１．概要

各町内から一名ずつの防犯推進委員で組織される「防犯組合」に加え，独自に「自警団青葉安全パトロール隊」・「自警団女性パトロール隊」・「シニアパトロール隊」を組織し，夜間・子どもの下校時間・登校時間等，校区内のパトロール，子どもの見守り活動を続けている。

入学・卒業式の前夜には，深夜 3 時から学校周辺をパトロール，学校公開日には不審者の侵入が無いよう学校内のパトロール，各学校の運動会や校区の体育会の時には会場内はもちろんのこと，留守がちになる校区内を巡回パトロールする。

香椎の花火大会の日には，青葉公園周辺の駐車場整理，違法駐車の見回りも実施している。環境活動推進会議の呼びかけで「わんわんパトロール」の黄色い帽子をかぶって犬の散歩をする活動もある。

２．きっかけ

平成 13 年に防犯組合長に就任された救仁郷さんが，町内の防犯推進員の皆さんと始められた夜のパトロールが自警団発足のきっかけだった。

３．経緯

最初は男性の有志による自警団の夜のパトロールから始まり，その後女性パトロール隊が結成され子ども達の下校時のパトロール，ねんりんクラブの皆さんの協力によるシニアパトロール隊の登校時のパトロールと活動が拡がっていった。その頃栃木，広島，奈良などで，子どもが大切な命を奪われ

る事件が相次ぎ，このようなことがけっしてあってはならない…という強い思いがパトロール活動の広まりへとつながった。

４．成果

空き巣等の犯罪被害は，パトロール隊の活動が始まってから目に見えて減少した。

活動の様子や成果が，市や県の広報誌やテレビ等で広報されることで，校区の方々が自分の街の安心・安全に積極的に目を向けることが出来るようになり，「私たちの街」に対する誇りを感じる機会が増えたと思う。

５．苦労した点

苦心しているのは「人集め」。

結成当初は年配者が多かったので，若い世代の方へ声かけを心がけた。それぞれの方の事情に合わせ，「無理はしないで」と声掛けをしている。

女性パトロール隊の結成は，幅広い年代の方に活動が拡がる良いきっかけになった。

６．工夫した点

町内に掲げている防犯ののぼり旗が破れていたら，ちょっと心掛けて報告していただくなど，校区住民ひとりひとりが「わがまち」の防犯に，より関心を持って何らかの形で関わっていただけるようにしたいと考えている。「旗が破れています」との報告にも，その日のうちに旗を届ける等こまめな対応がされている。

７．今後の目標・課題

校区内の犯罪ゼロが目標。また，自校区のみでなく，隣接校区の犯罪も合わせて減って欲しいと願って活動を続けたい。そのためにも，協力者層をより大きく拡げるため，今後は大学生，高校生に夏休み等を利用して活動に参加してもらう機会も作りたいと考えている。

現在も，夏休みに中学校の生徒会の皆さんと合同で校区パトロールや学習会をしているので，それらに参加した生徒さんから防犯意識が広まってくれれば良いと思う。

皆さんにぜひ伝えたいこと

地域の安全は皆の力を合わせて守るもの。小さな点の活動がつながり線となり面となる…そんな拡がりが安心安全な地域を作ると信じ，ひとりひとりが自覚を持って周りを気にかけ声をかける「向こう三軒両隣」のような関係作りが大切である。

「防犯で住みよいまち　吉塚」

博多区吉塚校区自治協議会　会長・防犯委員会会長　笹山　守人
博多区吉塚校区自治協議会　副会長　棚田　正憲
博多区吉塚校区自治協議会　副会長　萩原　純子

校区の特徴

・吉塚校区は，ＪＲ吉塚駅の南側から福岡空港まで細長く広がる地区で，北部は主に住宅街であり，南部は空港や都市高速道路に近接した利点を活用し，流通関連施設が多く立地している。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
9,931 人（区の 4.8%）	5,621 世帯	1.8 人/世帯	1,619 人（16.3%）

活動について

１．概要

平成 16 年 4 月 1 日より自治協議会が新組織として構築され，それに伴い校区防犯委員会（会長　笹山　守人）を結成し，校区を挙げて防犯パトロールに取り組んでいる。

毎週土曜日，夜 8 時より校区を 2 班に分け，隔週交代にて団体・住民が拍子木を打ちながら巡回し，防犯テープを流し夜間パトロールカーで巡回している。

また毎朝，小学校の登校時にスクールガード（地域ボランティア）が児童に声を掛けながら横断歩道で交通安全指導を実施するとともに，防犯パトロールカーでテープを流しながら校区を巡回している。

その他，校区行事（夏祭り・体育祭等）の際に，防犯・交通安全指導などの活動を行っている。

２．きっかけ

平成 16 年 8 月より各防犯委員の自家用車で青パト活動を開始し，その後，平成 18 年 4 月に市より中古の軽貨物車の譲渡を受け，青パトに改造し校区防犯パトロールカーとして活動を開始した。

また，平成 17 年より防犯ジャンバーを購入し校区全体で防犯意識の高揚を図った。

３．経緯

平成 18 年 6 月 4 日に青パトの披露と夜間パトロールの周知を兼ね，校区住民や精華女子高の吹奏楽部が参加し『吉塚 2000 年通り』でパレードを実施した。

また，平成 23 年には，校区自前の青パトを導入し防犯活動以外にも博多警察署や区役所の会議及び講習会等の連絡用として活用することにより，博多区全体の防犯意識の普及啓発に努めている。

４．成果

小学生や校区住民との挨拶や交流が広がり，犯罪に関する情報などが気軽に提供されるようになり，校区の危機管理に大いに役立っている。

また，不審者等の情報提供があった場合は，防犯パトロールカーで校区内を巡回している。

さらに，防犯ジャンバーを日常着用することにより，スーパーなどから万引き防止になっていると感謝され，防犯に関する相談等も持ちかけられるようになった。防犯ジャンバーを着用することにより校区の防犯意識が高まり，いつも地域のみなさんから『お疲れ様～』の声をいただいている。

５．苦労した点

夜間防犯パトロールの協力や人員確保及び高齢化に伴う若い世代の協力について，今後どうすればよいか，役員等で調査・検討している。

６．工夫した点

各町内や各団体で購入した会員・住民統一の『防犯帽子・防犯ジャンバー』をどこに行くときも着用することにより，校区の連帯感及び“安全・安心の吉塚“をアピールしている。

夜間パトロールでは，防犯テープを流し拍子木を打ちながら巡回し校区内の防犯に努めており，小学生の登校時のパトロールにおいても防犯テープ及び声掛けなどを行っている。

また，小学校の入学式をはじめ，登校時の街頭指導の際，防犯ジャンバーを着用しているため新一年生の見守りの印として定着している。

７．今後の目標・課題

小学生の放課後の見守りについては，不定期に青パトで巡回しているが，下校時間が学年によって違うので手薄になることがある。

夜間パトロール時の中学生や高校生に対する声掛けについては，言い争い等が起きないように注意している。

皆さんにぜひ伝えたいこと

地域の安全・安心は，まず校区住民の協力・努力によって，高齢者から乳幼児までを守るという意識があってこそ守れるのではと思っている。

少しでも犯罪が減るよう願いを込めて，今後も校区の防犯活動の取り組みを積極的に進めていきたい。

防犯で住みよいまち吉塚

表彰状

吉塚校区防犯組合 殿

貴団体は一致協力して地域安全活動を推進され顕著な成果を収められましたここにその功績をたたえ表彰します

平成二三年十月二五日

九州防犯協会連絡協議会長 小川 洋

九州管区警察局長 小風 明

お疲れ様！

「地域のシンボルづくり
～世代を超えた地域住民が参加できる新しい祭りの創設～」

南区西高宮校区自治連合会　副会長　甲斐　育子

校区の特徴

・南区で一番北側に位置し，都心部に近く，西鉄天神大牟田線平尾駅・高宮駅に隣接した交通利便性の高い地域。
・都心に近い割には緑が多く，交通の便も良いため，マンションが数多く建設されている。
・人口は南区内 25 校区中で１番多く，人口密度も１番高い。
・小学校の児童数も南区内で最も多い。
・過去 10 年間（2003～2013 年）で人口が 14.2%増加。（南区 3.0%増）。

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
17,349 人	8,207 戸	2.1 人/世帯	2,857 人（16.5%）

活動について

１．概要

西高宮校区では，新しい地域の活性化，コミュニティづくりの行事として公民館に隣接するため池を利用して，平成 21 年度から毎年 9 月に「あかりのともる新池まつり」を開催している。牛乳パックや竹筒を利用して手作りしたぼんぼりで，池ののり面や湖面を照らし，幽玄の世界へ誘う。併せて，各種団体の出店や演奏会などを実施している。

２．きっかけ

西高宮校区では，住民が一体となれる事業で，かつ，次の世代へ繋げる事業を模索していた。

一方，校区内には，住宅地にもかかわらず複数のため池が存在しており，その一つである「平尾新池」は，校区の拠点施設である公民館の隣に位置し，過去は汚れていたものの近隣住民の清掃活動のおかげできれいになった。また，遊歩道が整備されて校区住民の憩いの場となっていたことから，この「平尾新池」を活用した事業を検討していた。

この二つの想いが結びついてこの事業が始まった。

３．経緯

平成 21 年度に，公民館主催事業として各種団体や学校，地域住民の協力を得てスタート。平成 24 年度からは，校区自治連合会と公民館の共催事業として開催している。

４．成果

ぼんぼりの多くは，小学校を通じて子ども達に作ってもらっており，年々，その数も増えてきている。準備や当日の協力についても，年々，多くの人が参画するなど，校区の祭りとして定着してきた。

祭り当日は，子どもから高齢者まで多くの人たちで賑わっており，この催しをすることで，日頃から池をきれいにしようという気風が生まれてきている。

５．苦労した点

日頃から近隣住民の人々が清掃活動は行っているものの，池へ河川の流入がなく雨水のみのため，池の浄化が課題となっている。

屋外での事業なので，天候が不安定なときの実施可否の判断時期，そして，その結果の広報には，毎回苦労している。

６．工夫した点

ぼんぼりは，牛乳パックをリサイクルしたり，間伐竹で作るので，それほど費用がかからないうえに，環境にもやさしく，また，子ども達に作ってもらうことで，子ども達が地域行事に参加する機会にもなっている。

７．今後の目標・課題

校区の祭りとして，また，コミュニティ形成の機会として更なる高まりを目指していきたい。そして，住民一人ひとりが主役として活動する参画型の祭りとして続けていきたい。

皆さんにぜひ伝えたいこと

平成 21 年度から始まり，今年で６回目となる「あかりのともる新池まつり」は，清掃活動によりきれいになった平尾新池を地域のシンボルと位置づけ，その池を利用した地域コミュニティづくりの新しいイベントとして定着してきました。

「あかりのともる新池まつり」では，小学生のほか公民館サークルや各種団体が，牛乳パックや竹筒を利用して作った約 4,000 個のぼんぼりを，池の周りや，筏や神輿に載せて池に浮かべます。だんだん暗くなってくると，みごとな幽玄の世界へと誘ってくれます。そして，その明かりをバックにピアノやヴァイオリンなどのコンサートが行われます。

毎年，子どもから高齢者まで地域の皆さんの協力で作られる素晴らしい夜景を，校区の方々が誘い合って見に来る姿が見受けられ，世代を超えて一緒に楽しめる一夜となっています。

この「あかりのともる新池まつり」は，これからも校区で継承していきたい事業の 1 つとなりました。

「出あい　ふれあい　助けあい　明るいわが町　わが校区」

城南区城南校区自治協議会　会長　　稲益　重樹
城南区城南校区自治協議会　副会長　川島　恭子

校区の特徴

・場所は，西新から南へ約 3 キロ。城南区の西端に位置。
・最大の特色は，校区の中心に 3 つの公立学校（城南小学校，城南中学校，城南高校）が隣接していること。高層マンションや大型商業施設はなく，3 つの学校を中心に住宅地がひろがる文教地区として歩んできた。
・中村大学や福岡大学からも近いため，賃貸アパートも点在。
・昔からの住民の高齢化が進む一方で，「子育てがしやすい落ち着いた校区」として若い家族や転勤族らの転入も多く，人口・世帯数ともに増加している。

【校区の現況（平成 26 年 3 月末現在）】

人口	世帯数	世帯当たりの人員	65 歳以上人口（割合）
14,173 人	6,512 世帯	2.2 人/世帯	3,207 人（22.6%）

活動について

１．概要

毎週日曜日の朝８時から，城南小学校の運動場（雨天時は体育館）で，「ひまわりサンデー　ラジオ体操」を行っている。

その他，年間を通じて，さまざまな行事を企画。夏は，夏祭り。秋は，「ふれあいフェスティバル（運動会)」や文化祭。冬は，もちつき大会や「ウィンタースポーツフェスティバル」を実施し，住民の交流の場づくりに力を注いでいる。

２．きっかけ

城南校区のスローガンは，「出あい　ふれあい　助けあい　明るいわが町　わが校区」。住民が高齢化し，新たな住民も増える中で，このスローガンどおりの校区にするために，住民の交流行事にさらに力を入れていきたいという思いがあった。

そこへ平成 25 年度，区役所から「地域参画予算」の募集があった。そこで自治協議会役員と公民館で話し合い，「ひまわりサンデー　ラジオ体操」を企画した。

ラジオ体操に着目した理由は，近年その健康効果が改めて注目されていること。またラジオ体操ならば，年齢を問わずに，短時間で参加できる点も魅力だった。と同時に，毎週実施することにもこだわった。

その狙いとしては，①住民の出会いの場を定期的に設ける②世代を超えた交流の場を増やす③継続することで住民の健康増進に寄与する④地域に顔見知りを増やすことで，災害時や困った時に役立つ助け合いネットワークが育ってほしい，という願いと期待があった。

３．経緯

・平成 25 年 5 月：城南区役所に「ひまわりサンデー　ラジオ体操」の企画書を提出。審議の結果，「地域参画予算」の対象事業に採用決定。
・平成 25 年 7 月：実行委員会を開催。
・平成 25 年 8 月：ポスター・チラシを作成し，広報活動を開始。地域参画予算で公民館備品として，区役所がラジカセ・スピーカー・マイク・CD・延長ケーブルを購入。
・平成 25 年 9 月 8 日：「第１回ひまわりサンデー　ラジオ体操」を城南小学校体育館にて実施。
・以後，現在にいたるまで，毎週日曜日の朝 8 時から実施。休止したのは，盆，年末年始，運動会の日のみ。毎回の運営（道具の出し入れなど）は，自治協議会や各種団体の役員が交代で行っている。

４．成果

・第 1 回目は，249 名の住民が参加。以後，少しずつ減っていったものの，現在でも毎回 100 名以上がコンスタントに集まっている。
・参加者の顔ぶれは，小学生から高齢者までさまざま。
・なかには１人暮らしの高齢者もおり，外へ出て，人とふれあう機会になっているようだ。
・また，小学生の保護者からは「日曜日も朝早く起きるので，生活リズムが崩れなくなった」という声も聞かれる。
・引っ越してきたばかりの住民が家族ぐるみで参加しているケースもあり，「地域に溶け込むきっかけになった」という声も聞かれる。
・一方，運営する自治協議会役員にとっても，顔見知りの住民が増え，ラジオ体操の場でさまざまな校区行事の PR を行えるようになった。そのおかげで，2 月には福岡市内で初の試みとなる，中学生と地域住民が語り合う「トーク・フォークダンス」も多くの住民の参加を得て実施できた。
・さらに，役員同士が日曜日ごとに会うので，顔を合わせて話し合う回数が増え，各町内会や各種団体との横のつながりも強まった。

５．苦労した点

・いちばんの課題は，参加者集め。どうしたら住民に参加してもらえるか，本当に集まってくれるのか，当初は心配した。
・また，道具の出し入れや，受付，ラジカセの操作，後片付けなど，毎回の運営を誰が行うのか。毎週実施するにあたっての，継続的な人手の確保も課題だった。

６．工夫した点

・住民に参加を呼びかけるツールとして，掲示板のポスター，各戸配布のチラシを作成。公民館だよりでも広報した。また城南小学校の全児童・保護者向けに，参加を呼びかけるプリントを配布した。
・リピーターを育てるために，参加カードを作成。参加のたびにスタンプを押し，1 枚（スタンプ 15 個）が終わったら，粗品（ティッシュペーパー）をプレゼントするようにした。
・年度末には，「お楽しみ抽選会」も実施。
・また 3 ヶ月に 1 回の割合で，「スペシャルデー」を企画。健康運動指導士による運動指導や，保健師による血圧測定コーナーなどを設け，新たな参加者の掘り起こしを図った。
・毎回の運営は，自治協議会三役，各町内会，各種団体から１名ずつ参加して，道具出しや片づけにあたることにした。

７．今後の目標・課題

・参加者が固定化しつつあるので，PR 活動を工夫し，新たな参加を呼びかけていきたい。
・参加する楽しみの一つとして，粗品のプレゼントや抽選会を継続していきたいが，その予算捻出も課題の一つ。
・そこで新たな企画として，参加者に毎回，家庭にある空き缶を持ってきてもらい，リサイクル回収にまわすことを検討している。そこで得た資金を，ラジオ体操の景品などに充てたいと考えている。
・毎回の運営スタッフも固定化している。負担を軽減するための工夫も課題。
・また自治協議会全体としては，高齢化や少子化のなかで，いかに今後も地域を活性化させていけるか。また，多くの校区行事や活動を，誰が役員になっても継続していける仕組みづくりが，今後の課題と考えている。

皆さんにぜひ伝えたいこと

・本校区は，校区の真ん中に３つの学校があり，「あいさつ通り」もある。昔から伝統的に，子どもを中心とした住民の輪やつながりが自然に育っていた。だからこそ，この「ひまわりサンデーラジオ体操」も実現・成功したのだと思う。
・ただ，本校区でも，校区の運動会を中止した時期があった。「人集めや準備が大変」という声があがったためだった。
・しかしやめてみたことで，分かったこともあった。行事をなくすと，住民同士の交流の場や，校区の活気が失われてしまう，ということ。また，1 度なくしてしまったものを復活させるためには，3 倍，4 倍のエネルギーが必要だということである。しかし３年後，当時の役員会で話し合い，校区運動会を復活させた。以後，交流行事に一層の力を注ぐようになった。
・行事を行うことは大変である。まして新たな行事を増やすことには勇気がいる。しかし，校区行事は，住民同士の貴重な交流の場。また行事を準備する過程で，役員同士も結束し，互いの仲を深めることができる。行事が増えれば増えるほど，それらのチャンスも増え，冒頭のスローガンどおりの校区に近づいていけると信じている。

ひまわりサンデー　ラジオ体操

校区旗のデザインに託されたまちづくり

校区旗には「出あい」「ふれあい」「助けあい」のまちづくりへの気持ちが込められています☆

① ひまわりの花の中心にある１０個の種子は，校区内１０町内会を表しています。それぞれ形や大きさが異なっており，町内ごとに特色があることを表現しています。

② 花びらは１２枚あります。これは１０町内会と小学校と中学校の計１２枚で，地域で和になって咲く力を表現しています。

③ ２枚の緑の葉は平和を表し，自治協議会と公民館で地域を支えていることを表現しています。

④ 旗の青色は校区の色で大海原を表し，花の橙色は元気を表しています。

「北崎の魅力とまちづくり活動～北崎を考える会～」

西区北崎校区自治協議会　会長　柴田　敏昭

校区の特徴

・糸島半島の北端に位置し，糸島市と隣接している海・山の自然豊かで風光明媚な地域
・旧北崎村は，1961 年(昭和 36 年)に福岡市に合併，2011 年(平成 23 年）に 50 周年記念式典を開催
・地域の産業は，農業と漁業が中心で校区全体が市街化調整区域，高齢化と人口減少傾向が続いている

【校区の現況】（平成 26 年 3 月末現在）

人口	世帯数	世帯当たり人員	65 歳以上人口（割合）
2,528 人	910 戸	2.8 人/世帯	867 人（34.3%）

活動について

１．概要

当初は，自治協議会とは別個の団体として活動していたが，現在は，校区自治協議会の中の組織として位置づけており，校区一体のまちづくり活動を行っている。

２．きっかけ

平成 11 年に北崎グリーンビレッジ構想が凍結になった後の北崎校区の活性化を図るためのまちづくり団体として，平成 12 年に設立し活動を始めた。

３．経緯

平成 13 年，北崎地区活性化構想を市と策定し，９つのアクションプラン(行動計画）により，各項目の実現に向けて活動を開始した。

４．成果

アクションプランの項目について，地域の考えを取り入れた北崎公民館の建て替え，フラワー道路整備，ハイキングコース整備などが行われた。

また，長らく実施していなかった地域おこしイベントを昨 25 年，「花鯛郷秋穫感謝祭ｉｎ北崎」として開催，多数の来場者により活況を呈した。

５．苦労した点

・地域のいろいろな立場の人たちの意見調整

６．工夫した点

・北崎を考える会は，北崎の将来を考えるまちづくり団体であるので，校区内の多様な意見を反映できるような人員体制に努めている。

・市との意見交換会を過去 2 年間に 2 回開催し，施策への反映に理解を求めている。

７．今後の目標・課題

〇目標

さらなる北崎の魅力を創出・発信するとともに，定住化促進や訪問者の増加を図り校区の活性化を図りたい。

〇課題

公共交通機関(バス）が本数などの面で不便，主要道路が海岸沿いの県道だけで交通ネットワークが弱い。

皆さんにぜひ伝えたいこと

北崎は，玄界灘に面して 2 つの漁港を有するとともに，美しい海岸線が糸島市方面へ連なり，陸地にはハイキングコースが整備された灘山や柑子岳などがある自然豊かなすばらしいところです。

北崎の農・漁業はみなさんの生活と密接な関係があります。市内の漁業生産量の第２位の西浦漁港や，ブランド牡蠣「恵比須牡蠣」を生産する唐泊，農業耕地面積も市内で最も多く，北崎スイカや大根などの野菜を生産しており，また花弁の生産地としても北崎は有名です。

これら北崎産の農産物や魚介類は，ときにみなさんの家族団らんの食卓に並び，花弁は潤いとなごみをお届けしているものと思います。

私たちはみなさんに，このすばらしい北崎を知っていただき，多くの人たちに当地を訪れてほしいと願っています。このため，より地域の魅力を高め，来て良かったと言っていただけるまちづくりに取り組んでいきますので，どうぞ注目していただきますようお願いします。

花鯛郷北崎・帆音陽流宣言
−北崎地区活性化構想−

北崎を考える会
福　岡　市

1　構想の理念

花鯛郷北崎・帆音陽流宣言　あいうえおの理念

私たちは『あ』い、『い』やし、『う』み、『え』がお、『お』か』を郷づくりの理念として大事にします

花鯛郷北崎・帆音陽流宣言とは、船の帆音が静かに聞こえ、陽が海に反射され丘を明るく輝かせながら、変わりなく海から上がり、海に沈んでいく北崎のイメージをこれからも大事にするとともに、今後の郷づくりヴィジョンとする決意をこめた宣言である。北崎を中心とした志賀島、能古島、玄界島、糸島半島で形づくられる博多湾内外の海の美しさをポート(Port)として、同様に、北崎のもう一つの重要な地域資源としての山をヒル(Hill)として位置付け、それらに花や鯛などの北崎くささ（らしさ）を付け加え活用していく。この構想をもとに、私たちは、福岡都市圏の中で重要でかけがえのない北崎として、農業・漁業の振興を図ると共に、住み良い環境と地域社会を創り上げることに努力する。

活性化とは、地域住民が中心となり、皆が共有できるまちづくりの方向を定め、それに向かって地域住民と行政が共働で継続的に努力することである。この観点から、地元住民で構成される「北崎を考える会」と福岡市が共に構想策定にあたった。構想の策定後は案件により短中期および長期的視点に立ち、北崎地区のまちづくりを行うものとする。

2　活性化の方向性

【方向性】

■地域資源の活用
- □　北崎地区の豊かな自然を守る
- □　都市近郊農業・漁業の振興を図る

■地域の魅力の創出
- □　住みやすく、魅力的なまちづくりを行う
- □　北崎の魅力を売り出すＰＲ戦略の展開を図る

■地域の自主性と主体性によるまちづくり
- □　地域住民の自主性、主体性を確立する
- □　継続的なまちづくりの展開を図る

3　9つのアクション・プラン

上記で示した理念と方向性に基づいて、９つのアクション・プランを設定し、優先的に実行していくものとする。

■ソフト分野■

1　「北崎を考える会」の発展拡大

□「北崎を考える会」を発展拡大させ、地元若手を中心とした企画運営委員会を「北崎を考える会」の中に設立する。この委員会において今後の北崎のまちづくりを企画運営していくとともに、必要に応じて部会を作って郷づくり活動を推進していく。

（例）ハイキングマップ（歴史探索）部会、北崎ブランド部会、イベント部会、フラワーロード部会、定住化プラン部会、姉妹村交流部会　など

2　北崎ブランドの確立

□北崎地区の農産物・魚等に付加価値を加え、消費者にアピールできる北崎ブランドを開発し、販路を確立し販売する。　（例）花鯛郷（はなだいごう）・北崎（きたざき）ブランド

3　ＰＲイベントの開催

□「北崎」の知名度向上を図るため、地域住民（北崎を考える会）が自主的、定期的に北崎各地でイベントを開催する。

□H14 年度にキックオフ・イベントを計画し、北崎活性化へのスタートとして住民総意のもとに開催する。

4　海釣公園緑地の活用

□公園緑地を利用し、朝市（さかな市、やさい市）などを開催し北崎産物の直売を行う。

□開催運営は農協や漁協を中心に地域住民（北崎を考える会）が行う。

■ハード部門■

5　まちづくり拠点の創出

□北崎公民館の改築を機に、北崎校区老人いこいの家、西消防団北崎分団車庫、西区役所北崎連絡所を合築し、北崎のまちづくり並びに生涯学習の拠点となる複合施設を、平成 15 年度建設に向け検討する。この建設にあたっては、ワークショップ等を通じて地域住民と行政が共働で進める。

□北崎の魅力を多くの人に発信するため、地域情報を提供する。

（例）訪問者へのハイキングマップ、季節の花・魚、北崎の名所の情報提供

6　フラワーロード整備

□整備中の小田農道（H.１６ 完成予定）の沿線に季節の花々を植えることで訪問客や地域住民にアピールし、「花のまち・きたざき」のイメージを定着させる。

□花の管理運営は地域住民（北崎を考える会）が行い、北崎地区のまちづくりの一つのシンボルとして育てる。

7　道路ネットワークの充実

□小田農道から西浦方面への交通の円滑化を図るため、道路の改善を行う。

□学園通線開通（H.20 代 年半ば予定）や九州大学学術研究都市構想の進展や地域状況の変化を勘案しながら、道路ネットワークの充実策を検討する。

8　住みたくなるまちづくり

□地域住民（北崎を考える会）が主体となって定住化プランを策定する。

□定住化プランに基づき、地域にふさわしい居住機能の充実を図る。

（例）漁民住宅、田園住宅など

9　ハイキングコース整備

□北崎の自然を活かし、柑子岳（こうしだけ）において地元の協力を得てハイキングコースを整備し、併せて案内標識や休憩施設等を設置する。また将来的に、柑子岳の史跡化を検討する。灘山の現在のハイキングコースについては、早期に施設の改善を行う。

□地域住民（北崎を考える会）を中心にして、北崎地区の歴史・史跡を中心にハイキングマップ作成やハイキングコースの設定、観光ボランティアを育成する。

■空から見た北崎

■平成 25 年開催の「お花の学校天神分校」でのフラワーアレンジメント

■福岡市と合併当時の風景
昭和 36 年頃の定期船「栄久丸」

■福岡市と合併当時の風景
昭和 37 年頃の中学校の朝礼風景

■近年の学校の様子

■平成 25 年開催の「花鯛郷秋穫感謝祭ｉｎ北崎」の告知ポスター

■平成 25 年開催の「花鯛郷秋穫感謝祭ｉｎ北崎」の会場の様子

校区での様々な取り組み

福岡市は，北は玄界灘に臨み，海の中道と糸島半島によって仕切られた博多湾を擁し，南は背振(せふり）山地，東は三郡（さんぐん）山地に囲まれた半月型の福岡平野に位置しています。

自然や歴史，社会環境など地域ごとに特色を持つ福岡市のコミュニティは，そこで生じる多様な地域課題に真摯に向きあい，生活を営む住民の豊かな住環境を維持し，向上するため，様々な取り組みを行っています。

福岡市では，そうした取り組みを広く市民の皆さまにお知らせし，コミュニティの活動への理解をいただくとともに，コミュニティにあっては他校区での活動を参考に，これからの取り組みのヒントにしていただきたく，平成 21 年度から，広報紙「コミュニティ通信」の発行を始めました。

今年度は第 17 号から第 20 号までを発行済みですので，ご紹介します。

福岡市 私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信

第17号

平成25年10月1日発行

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に"コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい""身近に感じていただきたい"、そんな思いを反映して発行しています。

今月号のテーマは"健康"です

～地域で取り組まれている、健康につながる活動を紹介します～

第2回自治協議会サミットにおいて、さざんクラブがウォーキングなどの健康づくりに関する取り組み内容を報告しました。詳細は裏面へ。

今号の地域の情報 博多区：南部6校区／中央区：小笹校区／城南区：別府校区／東区：三苫校区／早良区：飯倉中央校区

■発行／福岡市市民局コミュニティ推進課　〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号　TEL：733-5161　FAX：733-5595　■協力／福岡市自治協議会等7区会長会

中央区 小笹校区

地域の体操でイキイキ元気
～みんなでやろうよ小笹よかとこ体操～

「小笹よかとこ体操」は、地域住民に親しみをもって体操に取り組んでほしいという校区の自治協議会や健康運動指導士の思いから5年前に考案されました。振り付けは簡単で、曲も地域になじみのある「小笹音頭」が使われています。

これまでも校区の運動会などで用いられてきた同体操。さらに広げようと、7月1日に動画撮影が行われました。撮影には市の特定検診キャラクター「よかろーもん」も登場。地域の健康づくりを応援しようと元気に体操をしていました。

よかろーもんと元気に体操

撮影を企画した健康だいすき小笹実行委員会副委員長の入江正浩さん(74)は「老若男女問わず、日常のちょっとした体操に取り入れてほしいです」と話します。今回撮影した動画は、小笹小学校や校区内の保育園、幼稚園、各町内などに配布する予定です。

健康づくりに

城南区 別府校区

「けんこうラリー」

別府校区では、平成18年度に実施した「みんなで健康」城南まちづくり事業をきっかけに、その翌年度から自治協議会(健康づくり推進協議会)が中心となって「けんこうラリー」をスタートし、今年で7年目を迎えることができました。

「けんこうラリー」は、毎月第3日曜日朝9時からの別府公民館を起点とする校区周辺のウォーキング・年1回の三世代ウォーキング・講師による健康講座、城南保健所での校区検診など年間を通して多彩なメニューで行い、参加者は毎年500名を超えます。また、出席カード(右写真)には、毎回違ったシールが用意されているため皆さんの楽しみとなり皆勤賞をもらう方も増えてきました。

「健康で明るく、そして楽しい　住んで良かった別府校区」のスローガンと、「健康づくりは、まちづくり」を合言葉に、子どもから高齢者までだれでも気軽に参加でき、楽しく交流できる場として「けんこうラリー」が元気なまちづくりの一環になるよう目指しています。

地域では他にも「健康」に関わる様々な活動が行われています

城南区 城南校区 ウィンターフェスティバル
子どもと大人が全力で走った駅伝!!

西区 『美☆ボディメイク
バランスボールを
ストレッチや体幹
運動で体と心の
めざします

東区 三苫校区 「みとま健康フェスタ 2013 in 三苫公民館」

平成25年2月に校区健康づくり推進委員会で協議を行い、参加人数が減ってきている、ストレッチ体操を中心とする「健康教室」と校区ヘルスメイトの「料理教室」とを共催し、フェスティバルをすることに決まりました。

事業の名称を、「みとま健康フェスタ 2013 in 三苫公民館」と決め、平成25年7月12日(金)に公民館で開催しました。1階講堂では、校区ヘルスメイトによる朝食教室と講演会、2階では、校区健康づくり推進委員会の隠れ脳梗塞の診断や血管年齢・体脂肪・血圧の測定(右写真)などの健康診断を行いました。約70名の参加があり、健康づくりへの関心の高さを感じることができました。

健康づくり推進委員会では、「地域の交流こそが一番大事」と思っており、地域の人たちが集まって楽しい話をする、みんなが顔見知りになるということが地域の「健康づくり」であり、このまちに住んで良かったといわれるような「まちづくり」にもつながると考えています。

まちづくり

早良区 飯倉中央校区 ～三世代体力測定＆スポーツ交流会～

飯倉中央校区では、毎年、三世代の交流を中心に健康教室やイベント、また講演会や健康づくりに関する情報提供を行っています。

三世代交流事業は、春のグラウンドゴルフ大会、秋のウォークラリー大会及び体力測定＆スポーツ交流会があり、地域の交流を図る毎年の恒例行事となっています。

その中のひとつ、三世代体力測定＆スポーツ交流会は、健康づくりに取り組んでもらうには、まず自分自身の身体について知ってもらうことが必要とのことから、当初は一般の方を対象に計画をしていましたが、当時、子ども達の体力低下が報道されていましたので、子ども達にも運動するきっかけづくりができればと思い、平成19年度からは三世代で実施しています。

毎年100名を超える参加者があり、測定終了後はみんなでカレーライスを食べ、午後からは子どもから高齢者の方まで一緒に楽しめる、風船バレーや卓球バレーなどのニュースポーツや、ゲーム・レクリエーション等を行っています。

参加者との意思の疎通を第一に考え、これからも笑顔あふれる楽しい健康づくりを続けていきたいと思います。

体力測定は年代別に行われます～上体起こし

セミナー』
を使って
を鍛える
"美"を
!

東区 箱崎校区
「ゲンキッズはこざき」
元気にラジオ体操!

南区 花畑校区
校区探険ウォークラリー
次はどっちに
行けばいいのかな？

博多区
さざんクラブ
南部6校区

ウォーキングで地域の絆を深める
～健康づくりはまちづくり～

「さざんクラブ」は、平成16年度に博多区の南部6校区（那珂、弥生、板付北、板付、三筑、那珂南）の衛生連合会が中心となってつくられた団体で、地域に健康づくりが根付くようにと、合同でウォーキングマップを作成し、ウォーキングと交流会を実施しています。

ウォーキングは本年で10回目を迎えますが、回を重ねる毎に参加者が増え、昨年度は100名を超える参加者となっています。

ウォーキングで無理のない体力づくりをするとともに、特に特定検診・がん検診の受診率が低い壮年層（特に男性）に対し、健康づくりへの積極的参加を勧めていきたいと考えています。

さざんクラブ主催のウォーキング前の説明風景

報告！

第2回自治協議会サミットを開催しました！

福岡市自治協議会等7区会長会と市は、平成25年7月6日（土）、西南学院大学チャペルで「自治協議会制度10年目をむかえて～これまでを見つめて未来へつなごう～」をテーマに「第2回自治協議会サミット」を開催しました。

第1部は、自治貢献者感謝状贈呈式が行われ、自治協議会会長などを2年以上経験された方々全5名に対して、高島市長より、感謝状が贈呈されました。

第2部の事例発表では、自治協議会の運営や災害時の要援護者誘導訓練、健康づくりなど、地域の実情に応じた具体的取組みの事例が、各区1例ずつ報告されました。

続いて、第3部では、市長と自治協議会等7区会長会の結城会長、コミュニティ政策学会乾（いぬい）理事によるコメントがあり、城南区片江校区人権尊重推進協議会の山本会長、片江校区片江4丁目自治会の大澤会長が加わり、地域活動アドバイザー十時（とおじ）さんの進行で、担い手不足などの地域課題について、意見交換が行われました。

当日は天候の悪い中、約530名の参加があり、参加者からは「それぞれ特色ある活動がなされているのが、よくわかった。」「各校区間の情報交換が今後重要だと感じた。」「大変参考になり、今後の運営の参考にしたい。」などの感想が寄せられました。

●福岡市コミュニティ通信は福岡市のホームページに掲載しています。　福岡市コミュニティ通信　検索

●J:COMでは福岡の地域情報を発信しています。　ふくおかまい COM　検索

お問い合わせ・
地域の情報などは
各区役所まで

東　区役所	地域支援課	☎092-645-1041	FAX:092-645-1042
博多区役所	地域支援課	☎092-419-1048	FAX:092-434-0053
中央区役所	地域振興・支援課	☎092-718-1062	FAX:092-714-2141
南　区役所	地域支援課	☎092-559-5072	FAX:092-562-3824
城南区役所	地域支援課	☎092-833-4063	FAX:092-822-2142
早良区役所	地域支援課	☎092-833-4416	FAX:092-851-2680
西　区役所	地域支援課	☎092-895-7036	FAX:092-882-2137

次号（1月1日号）は、「安全・安心」をテーマにお届けいたします！

福岡市 私たちのまちの話題を紹介します

コミュニティ通信 第18号

平成26年1月1日発行

コミュニティ通信は、地域の様々な取り組みを紹介し、皆様に"コミュニティや地域活動にもっと興味を持っていただきたい""身近に感じていただきたい"、そんな思いを反映して発行しています。

今号のテーマは"安全・安心"です

～防災・防犯など、安全・安心なまちづくりにつながる地域の活動を紹介します～

城南区 南片江校区 ボウハンダーZ

南片江校区では、校区住民の平和と安全を守るため、『ボウハンダーZ』が活躍しています。
防犯に関する活動をはじめ、交通安全や防災の啓発活動などを通じて「地域住民が安心して暮らせるまち」や「子どもたちの笑顔があふれるまち」を目指して活動を行っています。

◀「ふれあい城南フェスティバル」でのパレード。

▲草ヶ江校区（中央区）のヒーロー「グラスサイダー」とコラボ。

▲自治協議会青パト"ブルッパ"に同乗。小中学校下校時に合わせてパトロール!!

今号の地域の情報 城南区：南片江校区／博多区：美野島校区／南区：花畑校区／西区：周船寺校区／東区：青葉校区
中央区：笹丘校区／早良区：飯原校区

■発行／福岡市市民局コミュニティ推進課　〒810-8620 福岡市中央区天神1丁目8番1号　TEL：733-5161　FAX：733-5595　■協力／福岡市自治協議会等7区会長会

博多区
美野島校区

美野島地域
児童見守り隊

美野島校区では、安全安心な街づくりの為に、従来から実施してきた希望者によるボランティア見守り活動を、平成24年4月の美野島小学校と住吉小学校の統合により通学区域が広がるのを機に「美野島地域児童見守り隊」を編成し、毎日、PTAと共同で40名程度が参加して登下校時の見守り活動を行っています。(右写真)

見守り活動を通じて、児童の交通マナーやルール遵守の点で成長が感じられます。更に、住民や通勤者(高校等の学生含む)の安全安心意識の高揚が期待されます。また、児童を含む、地域とPTAとの連携が深まってきています。

挨拶ができる子できない子、その時の児童の様子などの状況に応じた対応をすること、また、公園などの不審者対策としても見守り隊の配置を工夫しているところです。

南区
花畑校区

「みまもり隊」

▲登校時活動の様子

「おはようございます。」「もう遅いからお家に帰らないかんよ。」子どもたちと『みまもり隊』のカードを下げた隊員のあいさつや会話する様子が、校区内のあちらこちらで見られます。

「みまもり隊」は、子ども、障がい者や高齢者が安心して過ごせるように見守ることを目的として、平成18年に小学生の保護者全員と、校区内の住民や事業所職員の有志で組織されました。子どもの登下校時や放課後をはじめ、休日も校区内で見守り活動を行っています。

これからもみんなが安心して生活できるように、隊員を増やして校区中にあいさつの輪が広がっていくように活動を続けていきたいと思っています。

おまけですが、隊員にはお得な特典があります。校区内のスーパーマーケットや飲食店に協賛いただいて、隊員が協賛店で買い物をすると割引やポイントサービスを受けることができるんですよ。

ここがツボ!
子どもたちは、『みまもり隊』のカードを下げていることで、安心して挨拶をしてきます。
また、注意や安全指導をされても、よく聞き入れてくれます。

西区
周船寺校区

通学路見守り隊

登下校時に周船寺校区防犯推進委員会や小学校・PTA・民生委員等で協力し、通学路の要所での見守り活動や、青色防犯パトロールカー(青パト)でのパトロール活動を行っています。青パトでの巡回では、子どもたちに身近に思ってもらうよう、助手席には周船寺小学校の校長先生に同乗してもらい、マイクで「おはようございます」等の呼びかけを行ってもらっています。(右写真)

当初は、交通安全をメインで活動を行っていましたが、近年、携帯電話・スマートホンの普及や伊都区画整理事業による人口の増加で、犯罪に巻き込まれる危険性が増えたことなどにより、防犯活動に重きを置くようになりました。

地域からは、「子どもたちを安心して登下校させられるようになった」などの声をいただいています。また、子どもたちも地域の方々の顔を覚え、挨拶や会話をするようになってきているため、防犯だけでなく、地域コミュニティづくりにも役立っています。

東区
青葉校区

犯罪ゼロの校区を目標に様々な取り組みを!!

青葉校区では、校区内の犯罪ゼロを目標に自警団による夜のパトロールをはじめ、女性パトロール隊による下校時のパトロール、老人クラブの協力のもとシニアパトロール隊による登校時のパトロールなど様々な取り組みを行っています。

その取り組みのひとつとして、夏休みに中学校の生徒会の皆さんと合同で校区パトロール（下記写真）や学習会を実施しています。

この合同パトロールを始めるにあたり、中学校は活動を心配していましたが、いまでは中学校も活動をバックアップしており、参加した生徒の皆さんの防犯意識の広まりに期待しています。

その他、入学・卒業式の前夜には、深夜3時から学校周辺をパトロール、学校公開日には不審者の侵入が無いよう学校内パトロールなどを実施しています。

校区を上げての取り組みにより、空き巣などの犯罪被害は目に見えて減少しており、活動の様子や成果が県や市の広報誌やテレビなどで紹介されることで、自分のまちの安心・安全に目を向ける機会が増えました。

中央区
笹丘校区

校区をあげて防犯・防災・交通安全活動推進中!!

笹丘校区自治連合会の危機管理部は、防災活動だけでなく、防犯そして交通安全について訓練をする「総合訓練」を年に1回取り組んでいます。今年は、より多くの住民の方に参加してもらうため、「ゆるキャラ大集合!」や「大声コンテスト」も企画しました。また、反射材を用いた「自転車ステッカー」や「飲酒運転禁止ステッカー」を校区独自に作成して、街頭キャンペーンなどでの配布や、20年以上前から年末に友泉中学校と連携して地域住民と中学校のブラスバンド部員が参加する「歳末、安全・安心パレード」を行っています。

さらに、平成14年から地域住民が「パトロール中」と書いている黄色の札をリールにつけて犬の散歩をする「笹丘わんわんパトロール隊」を結成しています。福岡市内で草分け的存在になっており、この取り組みを開始してから校区の街頭犯罪が減少しています。

▲歳末、安全・安心パレード

◀わんわんパトロール隊

笹丘校区危機管理部統括本部長でもある自治連合会の副田会長は「さまざまな活動を通して地域のみんなが知り合いになることで、住民一人ひとりが笹丘校区を住みよいまちにしないといけないと思ってもらえるようになればいいな」とおっしゃっていました。

自転車ステッカー▶